# 社会復帰支援チーム活動報告 医療法人 誠和会 倉敷紀念病院リハビリテーション部

○金井敦史, 唐川佳明, 古畑恵, 西口萌 糸山克哉, 松岡和幸, 山下紗也子, 赤澤真世, 伊達咲乃

## 【はじめに】

当院では、2018年4月に回復期リハビリテーション病棟(以下、回リハ)に所属する作業療法士(以下、OT)、言語聴覚士(以下、ST)を中心に自動車運転支援チーム(現:社会復帰支援チーム)を発足した。現在OT4名、ST5名の計9名が在籍している。主に入院患者の退院後の自動車運転(以下、運転)再開や、復職に向けた支援の為に、道路交通法や神経心理検査法の理解、学術的な知識や技術の共有を行い、臨床における治療効果を高める事を目標に活動している。以下に、これまでの活動内容、今後の展望について報告する。

#### 【対象と方法】

対象は当院回リハに 2017年2月から 2023年12月までに入院された脳卒中および頭部外傷患者のうち、退院後に運転の再開を希望し、道路交通法に基づき、自動車免許取得の基準を満たす105名とした。内訳は男性99名、女性16名、平均年齢は65.8±12.3歳であった。脳梗塞が62名、脳出血23名、頭部外傷7名、くも膜下出血8名、ギランバレー症候群1名であった。2018年に主治医、リハビリテーション科医、療法士で作成した当院独自の運転支援マニュアルに加え、2021年度以降は日本高次脳機能障害学会(2020)による「自動車運転に関する神経心理学検査の適応と判断」「1)の指針およびフローチャートを併用し、運転支援を実施した。運転再開可否の評価については神経心理学検査(図1)や身体機能検査、必要に応じて自動車教習所での実車評価を実施した。

#### 【結果】

運転支援者 105 名の内,運転再開可能は 46 名,運転再開困難は 51 名,転院などにより詳細不明が 8 名であった.神経心理学検査で高次脳機能に大きく障害が無いと判断され、実車評価を実施したのは 19 名であり、その内 18 名が運転再開可能となった.入院中では運転再開が危険と判断され退院後に外来リハビリテーション治療に移行したのは 13 名でありその内,10 名が運転再開可能となった.運転支援者 105 名で,詳細不明 8 名を除いた

97名のうち、約47%が運転再開可能、約53%が運転再開困難であった.

## 【まとめ】

当院回リハは自動車運転支援を開始し約 6 年が経過している. 今年から新たに導入した年代別の高次脳機能評価判断基準を用いることで判断が繊細に行えるようになった印象を受ける. 今後の課題としてこれまでに蓄積したデータを基に, 傾向を分析, 他院との比較を実施したいと考えている. また当法人内の介護施設でも運用可能な仕組みも早急に構築したいと考えている。さらに自動車運転支援のみならず復職の支援の流れをマニュアル化しシームレスな支援体制を整えたいと考えている.

#### 【文献】

1)蜂須賀研二 他:脳卒中,脳外傷等により高次脳機能障害が疑われる場合の自動車運転に関する神経心理学検査の適応と判断. 日本高次脳機能障害学会 Brain Function Test 委員会,運転に関する神経心理学的評価法検討小委員会 2020



図 1